

# 山行報告書

全行程	2024年9月12日(金)～16日(月)	天候	晴れ/曇り/一時雨
山名	9/13-14 白山、9/15 荒島岳		
所属	福岡アゼリア山の会		
CL	NH	参加者	NM、TK、YK
<行程>			
9月12日	福岡～関西国際空港(悪天のため伊丹空港から変更)～多賀		
9月13日	多賀～別当出会(マイカー規制対象外)～砂防新道経由～南竜山荘(デポ)～御舍利山～別山～南竜山荘(ケビン泊、夕食、弁当あり) (標高差)累積1700 (歩行時間)8h		
9月14日	南竜山荘～白山室堂～御前峰～大汝峰～白山室堂～黒ボコ岩～観光新道経由～別当～勝山温泉水芭蕉泊(食事なし) (標高差)累積1700 (歩行時間)7:40		
9月15日	勝山温泉～勝原登山口～シャクナゲ平～荒島岳～勝原登山口～敦賀泊(アルファワン敦賀) (標高差)累積1370 (歩行時間)7h30m		
9月16日	敦賀～新大阪～福岡		
費用概算	交通費:各自にて航空機、新幹線手配 約25,000円 滞在費、共通経費(レンタカー、高速、燃料) 40,000円		
<リーダー手記>			
NH	<p>白山は以前に所属していた会の時代より、勝手ながらに西日本の山に属すると考えており、遠方故かねてより未踏であった。テン場が激烈おすすめと聞いてパラダイスのような妄想をしていた。西日本へ移り住んだ今、チャンスとばかりに山行を計画した。基本的には単独峰とは思いますが計画通りのルート歩き終えた感想としては、ただただスケールの大きさに圧倒された。3000mクラスの縦走はかなりご無沙汰だったが、アルプスかと思わせる縦走路、高度感に眠っていた(?)熱が呼び戻された。決して難しいルートではないが、そこから見える眺望はどれもが心を洗われる素晴らしい景色であり、まさに正真正銘パラダイスだった。登下山ともに暑さとの戦い、下山は尾根歩きで、背後より容赦なく照らされ熱中症リスクもあったが、通して無事に下山することができた。</p> <p>翌日は荒島岳を計画した。がっかり百名山と聞いており、どんなものかと期待半分でのぞんだ。この日は昨日までとは打って違って曇り空、雨予想もあり、早々の下山を目標とした。勝原登山口からのルートは激登につぐ激登、樹林帯でまったくの眺望もない。蒸し暑さとあまりの急登の疲労で気持ちも折れる中、なんとか山頂を踏んだ。曇りが厚くなり眺望ゼロの中、結構な雨も降り出し、早々に退散。同じルートを激下りし、登山口へ戻った。確かにがっかり百名山、いや修行百名山であった。</p> <p>3日間の山行を振り返り、まずは事故なく計画していた全行程を遂行できたこと、見てきた数々の素晴らしい眺望、暑さに耐えながらも共に歩き、共に感動したメンバーに感謝する。そして、山に登ることの素晴らしさ、モチベーションを誇示してくれた偉大なる山々に心から感謝する。</p>		

<参加メンバー感想>

NM	北陸遠征で以前から行きたかった念願の白山に登りました。暑さでバテバテでしたが、山頂からは槍ヶ岳も見ることができ想像以上の素晴らしい景色に感動し疲れも吹っ飛びました。
TK	1日目の砂防新道は暑い道のりでしたが途中の小屋で涼みながら登れ南竜ヶ馬場ケビンの方向だけ青空と別山が素晴らしく綺麗に見れました。2日目はトンビ岩コースで暗い中登り始めましたので涼しく登れましたが室堂から御前峰はずつと階段でとても疲れました。御前峰から大汝峰までは右手に剣が峰があり火口池を見ながらのルートで青い池がとても良かったです。下山の観光新道はとても長く日差しを遮るものがなくとても暑かったです。
YK	白山は、富士山、立山と並ぶ日本三霊山のひとつ。登山口にも「霊峰白山登拝道」とあり、鳥居をくぐり修験道を歩く気持ちで足を進める。2時間ほど歩きとても綺麗な甚之助避難小屋で休憩をとり、南竜山荘が見えてくると、一気に山岳リゾート地に来たかのような素晴らしいロケーションとなる。今回はそのリゾート地の中にある快適なケビンで宿泊、夕方雨が降ってきたが夜には満天の星空だった。翌朝は3時起床、まだ暗いトンビ岩コースを慎重に歩き、赤く染まる東の空や雲海に浮かぶ別山や御嶽山の雄姿を楽しみながら室堂まで登りあがった。室堂から御前峰へ登っている途中、まさかの真っ白になって残念に思っていたが、しばらくすると晴れて360度の絶景を見る事ができた。神様に歓迎されたような気持ちになって、大小さまざまな火山湖を巡り、大汝峰の頂から歩いてきた神々しい景色を眺めて感慨無量であった。まだ次の山へと続く長い道のりも見え、白山の大きさを感じた。下山は唯一の尾根道である観光新道を選択、この道は展望の素晴らしい快適な道なのだが、この日は9月の北陸なのに暑さとの戦いとなった。福岡からは遠い北陸へ今回は伊丹空港からレンタカーを利用という計画にハプニング満載だったが、CLと仲間の完璧な状況判断で酒の肴の思い出話となった。翌日は荒島岳に登頂したのだが、特に記することないのでこれで終わりとする。いつも楽しく頼もしいメンバーに感謝いっぱいです。

<写真集>

